



地図帳を活用するなかで、いろいろな記号を追う子どもたちが、「この“きごう”は、だれが、どのようにしてきめたの？」と、関心を持ち始めたのですが…。

回答者

東京学芸大学名誉教授 ● 次山信男

地図で“記号”を追う子どもから“記号”そのものに関心をもつ子！

地図の“記号”は、地図を読み解く大事な“カギ”ですから、学習のいろいろな場面で登場してきます。

これまで本誌では、社会科地図帳の“記号”をめぐる、「たどり、くくり、ひろげながら、地域情報の脈絡を追う子ども（読図）」(How to 地図帳その④-2007年4月号)や、「3年までの学習で描いた絵図や絵地図を、“記号”を使って地図化する（描図）」(地図帳活用相談室〈3〉-2009年1月号)という作業例を取り上げてきました。

そこでの子どもたちは、地図にある“記号”を追ったり、地域の事実を“記号”に置きかえたりすることによって、その地図が表そうとしていることを読み取ったり、その地域のようにすを地図化したりする作業をすすめています。

このような記号をめぐる読図や地図化の作業をすすめてくると、「この“記号”は、どのようにして生まれたのか？」と、記号そのものへ、子どもたちの関心が向けられてくるのもよくわかります。

地図帳にある具体的な記号と抽象的な記号と！

地図帳『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』（以下、地図帳）では、p.5～6「地図のやくそくごと」の㊦に「地図の記号」、

そして、p.7「地図帳の使い方」のなかの「地図帳のやくそくごと」に日本地図のおもな地図記号がまとめられています。これらを見ると、その記号が何を指しているのか、見てすぐわかる具象的な記号と、すぐには何を指しているのかわからない、特定の形に置きかえた抽象的な記号があることがわかります。これらを切り口にして、「この“記号”は、だれが、どのようにしてきめたのか」を、追ってみるのはいかがでしょう。

まず、p.7「地図帳のやくそくごと」にある「くらし（農業・工業・水産業）の記号」に、「おもな農業・水産業・林業の産物記号」や「おもな工業製品の記号」がありますが、いずれもわかりやすい具体的な“絵”で表しています。ですから、子どもたちは、誰かを問うこともなく、この絵記号を追って、地域の実態をいろいろと想像をめぐらしていきます。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.7

しかし、この“記号”は、この地図帳、つまり、『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』だけの約束で、必ずしもほかの地図帳の記号と共通するものではないのです。ですから、この地図帳以外の地図や地図帳を利用するときは、その地図で使われている“記号”を説明している、添えられた“凡例”に注意していかなければなりません。





『楽しく学ぶ小学生の地図帳 最新版』 p.44



凡例に注目!

小学生（6年生）が決めた「老人ホーム」の地図記号！

ところで、地図帳p.6 ㊦の「地図の記号」のなかに、「老人ホーム」の“記号”があります。この記号は、国土地理院がきめた新しい地図記号（2006年1月）の一つです。高齢化社会がおとずれ、老人ホームの建設が各地ですすめられるようになったからです。

そして、この  は、国土地理院がはじめて小学生からデザインを募集してきめた地図記号として注目されているのです。「小学生に、国土に対する理解を深めて欲しい。そのために、地図について学ぶ機会をたくさんもって欲しい」という願いから企画したということです。  の中の  は、何を表しているのでしょうか。お年寄りが頼りにしている“杖（つえ）”です。小学生ならではのやさしさが込められているように思うのですが……。そして、同じ年には、中学生に募集した風力発電用風車  の地図記号も決められたのです。

つぎにp.6「地図を読むときのやくそくごとを知ろう」の㊦「地図の記号」を見ると、ここでは、子どもにもわかりやすい具体的な“絵”ではなく、実際の“もの”や“はたらき”を抽象化した“記号”なのです。

実は、ここにある“記号”は、国土地理院という国の部署（国土交通省）で作成した、わが国の地形図（2万5千分の1）の地図記号なのです。したがって、日本で使われている地図の多くは、この記号をモチーフにして表されているのです。

















わが国だけに通ずる“地図記号”！

しかし、これらの“地図記号”も、わが国の地図にだけ使われ、海外の地図にはほとんどといっていいほど見当たりません（隣国、大韓民国の地図に、一部共通な記号が見られます）。一般に、海外の地図では、日本の地図に比べて、記号表現が少ないのが特徴です。地図帳での学習をすすめ、“地図記号”に対する関心を深めてきた子どもたちの、さらなる追究を期待したいものです。いかがでしょうか。









『楽しく学ぶ 小学生の地図帳 最新版』 p.6

地図の記号

どこに何があるのかな？

地図の記号は何がもとになっているのかな？

	小・中学校・・・・「文」の文字形
	警察署・・・・警棒（六尺棒）の交差を丸で囲んだもの
	消防署・・・・昔使われていた消防用の「さすまた」の形
	工場・・・・徳車の形
	神社・・・・鳥居を正面から見た形
	寺院・・・・まんじ（仏教のシンボルマーク）の形
	老人ホーム・・・・建物とお年寄りが持つ杖の組み合わせ（デザインは全国の小・中学生からの公募で決定）
	図書館・・・・本を開いた形（2002年に加えられた新しい記号）

地形図（国土地理院発行）のおもな地図記号のなりたち 帝国書院『地図帳活用ははじめの一步』 p.20